

再 評 価 書

箇所名	経ヶ峰線	事業名	林道事業	課 名	農林水産部 治山林道課														
事業概要	工 期 (下段前回)	平成6～令和16年	全体事業費 (下段前回)	3,977百万円(負担率:国50:県50:他0) 旧美里村以外(負担率:国50:県32.5:他17.5)															
		平成6～令和5年		3,977百万円(負担率:国50:県50:他0) 旧美里村以外(負担率:国50:県32.5:他17.5)															
事業目的及び内容																			
<p>(1)所在地 津市美里町平木地内の長野峠付近の市道(旧国道163号)を起点とし、津市芸濃町河内地内の県道津芸濃大山田線を終点とします。</p> <p>(2)事業の目的 路網の未整備な経ヶ峰周辺の森林における基幹となる林道として、林業生産性の向上を図ることによって、林業生産活動を活性化させ、森林資源を有効活用するとともに、森林の適正管理を促進し、森林の持つ公益的機能の維持増進を図ることを目的としています。</p> <p>(3)全体計画 ①延長 : 14,000m ②幅員 : 5m ③事業費 : 3,976,600千円(284千円/m) ④事業期間: 平成6年度～令和16年度(41年間)</p> <p>(4)利用区域内の森林資源の概要 当該路線の利用区域面積は1,071ha、民有林は882ha、国有林が189haあり、そのうち人工林が891haで、人工林率は83%です。 人工林のうち70%が11～60年生の間伐対象森林です。</p>																			
事業主体の再評価結果																			
<p>1 再評価を行った理由 平成26年度に再評価を実施後、一定期間(5年)が経過し、事業継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(3)に基づき再評価を行いました。</p>																			
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>(1)事業着手 平成6年度全体計画調査実施、平成7年度より経ヶ峰線林道起点の美里側工区から事業を着工し、平成8年度から林道終点の芸濃側工区を着工</p> <p>(2)進捗状況(平成30年度末の事業量) ①完成延長 : 7,431m (進捗率53%) ②事業費 : 2,437,992千円 (進捗率61%)</p> <p>(3)課題 急峻な地形だけでなく、地質が予想外にもろく、現在までに法面保護などに多大な経費がかかっています。また、津市からの要望もあり災害に強い林道が求められています。</p> <p>(4)利用区域内の森林整備状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">期 間</th> <th colspan="2" style="width: 60%;">H30調査時点</th> <th rowspan="2" style="width: 25%;">備 考</th> </tr> <tr> <th style="width: 20%;">整備面積</th> <th style="width: 20%;">うち除伐・間伐</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">H21～25</td> <td style="text-align: center;">111ha</td> <td style="text-align: center;">110ha</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">H25～30</td> <td style="text-align: center;">113ha</td> <td style="text-align: center;">109ha</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(5)その他利用区域内の状況 地元の強い要望により、平成21年度に林道中畑線の開設事業が着手されました。将来は林道経ヶ峰線との接続を前提としており、作業道等と併せたネットワーク化が期待されます。</p>						期 間	H30調査時点		備 考	整備面積	うち除伐・間伐	H21～25	111ha	110ha		H25～30	113ha	109ha	
期 間	H30調査時点		備 考																
	整備面積	うち除伐・間伐																	
H21～25	111ha	110ha																	
H25～30	113ha	109ha																	

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 周辺環境の変化

津市では、平成30年4月から津市総合計画・第二次基本計画がスタートし、間伐等の森林整備により、森林の適正な管理を推進するため、その基盤である林道・作業道の整備を進めることとしています。また、自然に親しむ環境づくりのため、経ヶ峰を通して森林保全に対する市民意識の醸成を促進することとしています。

【林業の振興】

- ・木材の利用拡大
- ・間伐未利用材の新たな利活用
- ・森林情報の整備
- ・施業地の集約化の推進
- ・林業事業体の育成（造林事業や高性能林業機械の導入支援）
- ・森林の多面的機能の維持・向上
- ・林道の計画的な改修・整備、施設の長寿命化、定期的なパトロールによる維持管理の実施

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

費用対効果は、前回1.34から、今回は1.21に減少しています。

	前 回	今 回
B (便益)	6, 547, 183 千円	7, 142, 155 千円
C (費用)	4, 903, 697 千円	5, 879, 953 千円
B/C	1.34	1.21

4-2 その他の効果

近年、自然エネルギーとして経ヶ峰線を利用し、風力発電施設が建設され電力の供給が行われています。また、キャンプ場やレクリエーション施設が集まる錫杖湖周辺の観光資源から、眺望のよい憩いの場として利用されている経ヶ峰頂上へのアクセス道として、自然を生かした集客交流産業の活性化を図ることも目的として整備いたします。

4-3 地元意向

津市では、当地域の適正な森林管理のための林内路網の骨格として、また、災害時における迂回路の確保、経ヶ峰登山を中心とした森林レクリエーション等への多面的な利用に重要な役割を果たすものとして事業の継続を望んでいます。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

地形にあった波形線形の採用や、路肩の縮減、コンクリート擁壁に替えて補強土壁工を積極的に活用し、土工量及び法面保護工面積を削減し、コスト縮減を図ります。

5-2 代替案

当林道の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はありません。

再 評 価 の 経 緯

《平成26年委員会意見》

事業継続の妥当性が認められることから事業継続を了承する。

なお、事業が長期に渡っていることから、早期の事業完成に努めるとともに、事業効果の十分な発現のために、森林整備・林業振興を目的とした施策をさらに推進されたい。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、コスト縮減を行い、関係する市町や地元関係者との連携を図り、計画的な予算配備に努めながら早期完成を目指し、事業を継続いたしたい。